

(別記)

豊明市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

【現状】市全体の耕地面積の約7割が水田であり、農業産出額の主力は水稲であるが、ぶどう・柿・みかん等の果樹や白菜・ブロッコリー・トマト等の野菜や花きも盛んである。また、農業生産法人を中心に麦・大豆の生産拡大に取り組んでいる。

【課題】販売農家数・農家人口ともに減少しており、基幹的農業従事者のうち約8割が60歳以上という現状から、後継者不足や遊休農地の増加が懸念される。

水田担い手の農業生産法人には利用集積、農作業受委託面積が年々増加しており、また今年度より米の直接支払交付金も廃止となるため、米の生産調整においての影響は大きくなることが予想される。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

年間を通じて安定した品質の米を生産・提供するため、又、生産者の所得向上を図るため、下記事項を主に推進する。

- 銘柄確認のため、種子を毎年更新することで品質の向上及び均質化を図る。
- 農協が定めた規格で、乾燥調整することにより品質の向上及び均質化を図る。
- トレーサビリティシステムの推進
- 品種の集約化により低コスト化を図る。
- 直播栽培の面積を拡大し、作業効率化を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米と同じ機械、施設で取組める転作作物として取組んでおり、更なる生産性向上を図る取り組みとして、直播栽培の面積を拡大し、作業効率化を図る。

イ 米粉用米

主食用米と同じ機械、施設で取組める転作作物として取組んでおり、昨年同様の面積を維持し、更なる生産性向上を図る取り組みとして、直播栽培の面積を拡大し、作業効率化を図る。

ウ 加工用米

主食用米と同じ機械、施設で取組める転作作物として取組んでおり、更なる生産性向上を図る取り組みとして、直播栽培の面積を拡大し、作業効率化を図る。

(3) 麦、大豆

麦に関しては、下記事項を重点的に推進する。

- 銘柄確認のため、種子を毎年更新することで品質の向上及び均質化を図る。
- トレーサビリティシステムの推進
- 赤かび病防除の徹底
- 担い手農家に生産を集約し、品質・収量ともに安定した作付けを目指す。
- 団地化を行った担い手に対して、助成することにより生産の安定を図る。
- G A Pの導入。

大豆に関しては、下記事項を重点的に推進する。

- 銘柄確認のため、種子を毎年更新することで品質の向上及び均質化を図る。

- トレーサビリティシステムの推進
- 担い手農家に生産を集約し、品質・収量ともに安定した作付けを目指す。
- 団地化を行った担い手に対して、助成することにより生産の安定を図る。
- G A Pの導入。

3 作物ごとの作付予定面積

| 作物 | 平成 29 年度の作付面積 (ha) | 平成 30 年度の作付予定面積 (ha) | 平成 32 年度の作付目標面積 (ha) |
|-----------|-----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 主食用米 | 175 | 192 | 175 |
| 飼料用米 | 15 | 6 | 9 |
| 米粉用米 | 10 | 10 | 12 |
| 新市場開拓用米 | — | — | — |
| WCS 用稲 | — | — | — |
| 加工用米 | 16 | 6 | 10 |
| 備蓄米 | 6 | 6 | 4 |
| 麦 | 20 | 21 | 23 |
| 大豆 | 21 | 22 | 24 |
| 飼料作物 | 2 | 2 | 2 |
| そば | — | — | — |
| なたね | 0.3 | — | — |
| その他地域振興作物 | 50 | 51 | 55 |
| ・野菜 | 27 | 28 | 30 |
| ・果樹 | 15 | 15 | 17 |
| ・景観作物 | 5 | 5 | 5 |
| ・その他 | 3 | 3 | 3 |

4 課題解決に向けた取組及び目標

| 整理 番号 | 対象作物 | 用途名 | 目標 | 現状値 (29 年度) | 目標値 (32 年度) |
|----------|------|-------------------|------------|-------------|-------------|
| | | | | | |
| 1 | 麦 | 麦の高付加価値化対策 | G A P 取組面積 | 20ha | 23ha |
| 2 | 大豆 | 大豆の高付加価値化対策 | G A P 取組面積 | 0.64ha | 0.67ha |
| 3 | 飼料用米 | 飼料用米の低コスト 技術栽培 | 低コスト技術の面積 | 15ha | 9ha |
| 4 | 米粉用米 | 米粉用米の低コスト 技術栽培 | 低コスト技術の面積 | 10ha | 12ha |
| 5 | 加工用米 | 加工用米の複数年契約 | 契約数量 | 21.54t | — |

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり